

佳作

目立ちたがりの理想

青森県むつ市立川内中学校

2年 笠井 颯真

「なんでだよ！ わかってよ。」

僕は、どちらかというリーダーに向いている方だと思っていた。僕の目指している理想のリーダー像は、みんなから頼られる人だ。しかし、僕は昨年、学級会長として、みんなをまとめる中で自分の弱さを知った。

『頼られるリーダー』とは、どのような人なのだろうか。実際の僕はというと、「人の前に立ち、引っ張っていくのが好き」「自分からなんでもやりたがる」みんなからしたら、迷惑でしかない極度の目立ちたがりだ。「自分にしかできない」「他の人には自分ほど良いものは作れない」と思ってしまう。何かをやると決めると、周りを見ずに暴走してしまうのだ。さらに、自分の力以上の高い理想を持っているせいで、やらなければならないという責任感を、周りに押しつけてしまうのだ。それでも、率先してやっているから、みんなのためになっていると思っていた。でも、自分よりすごい人なんてたくさんいた。なかなかまとまらない意見を、一言でまとめあげたり、みんなが自然についていくなど、すごいなあと思う人がたくさんいた。周りを見ると、僕はリーダー像からほど遠いと感じるようになった。僕が正しいと思って行動しても、みんなにはなかなか伝わらない。僕もわかってもらえないことにいら立ち、命令口調になってしまう。何度も注意された。とても「頼りたい」と思われるリーダーではなかった。そして、どれだけみんなのためになろうとしてもからまわり。そんなとき、ある人に言われた言葉が心に響いた。

「時には人に頼っていい。颯真はリーダーとしてまだまだだし、学ぶこともたくさんある。」と。

そう言われた僕は、何か救われた気がした。「困ったときは、誰かを頼っていい」当たり前なことだが、僕に欠けていることだと気づいた。

僕はよく、学年委員会の仕事を家ですることがある。母には、

「また仕事を引き受けてきたの。忙しくて疲れたと言うくらいならやめなさい。」と言われる。そのたびに、

「自分が決めたことだからやる。僕の信念だから。」と返してきた。

しかし、あの言葉があったおかげで

「そうだ。こういう時こそ、仲間を頼って分担するといいんだ。」と思えた。それからは生活の中で、「これお願い」「どうすればいいと思う」など、勇気

を出して仲間の助けを借りるようにした。

ある時、卒業生を送る会の出し物の話し合いで、これまでの話し合いと違う感覚があった。「どうする」と聞くと、仲間の考えがたくさん聞こえてきた。自分にはなかった考えやナイスと思えるアイデア。「じゃあこうする？」と聞くと、そこでもいろいろな意見が出て、だんだん一つにまとまっていった。「ああ。これがリーダーとして大切なことか」と気づいた。自分の思いだけではみんなをまとめることができないのだと。自分だけの思いで前に立っても相手には伝わらない。仲間一人一人に考えや思いがある。自分と同じ考えの人もいれば、全く違う考えの人もいる。そういうたくさんの思いに寄り添って一つにしていくのがリーダーの役目なのだ。

僕はまだまだ、自分の思いだけで暴走することもあるし、人前に立って引っ張りたい思いが前面に出してしまうこともある。周りのためだと思って行ったことが迷惑になることもある。それでも、今のはこれでよかったのかと自分の言動を振り返りながら、変わっていきたい。自分の理想を押しつけるリーダーではなく、仲間に寄り添い共に頼りあえるリーダーになるために。